



2022年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年5月13日

東

上場会社名 株式会社PKSHA Technology 上場取引所
 コード番号 3993 URL http://pkshatech.com/
 代表者 (役職名)代表取締役 (氏名)上野山 勝也
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 経営管理本部長 (氏名)中田 光哉 (TEL)03-6801-6718
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第2四半期の連結業績(2021年10月1日~2022年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第2四半期	5,685	35.7	1,563	110.9	916	91.0	901	104.9	500	117.6
2021年9月期第2四半期	4,190	11.2	741	11.1	479	16.7	439	4.8	230	△6.4

(注) 包括利益 2022年9月期第2四半期 △402百万円 (—%) 2021年9月期第2四半期 802百万円 (△42.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第2四半期	16.41	15.91
2021年9月期第2四半期	7.56	7.27

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年9月期第2四半期	34,314	28,204	81.4
2021年9月期	35,277	28,605	80.4

(参考) 自己資本 2022年9月期第2四半期 27,934百万円 2021年9月期 28,363百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年9月期	—	0.00	—	—	—
2022年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の連結業績予想(2021年10月1日~2022年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭	
通期	12,000	37.5	2,360	59.0	1,000	40.2	940	47.9	260	76.2	8.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年9月期2Q	31,041,800株	2021年9月期	30,966,600株
2022年9月期2Q	502,076株	2021年9月期	502,049株
2022年9月期2Q	30,523,017株	2021年9月期2Q	30,420,951株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(会計方針の変更)	P. 9
(セグメント情報等)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「未来のソフトウェアを形にする」というミッションのもと、自然言語処理、画像認識、機械学習/深層学習技術を用いたアルゴリズムの研究開発、ソリューション提供、プロダクトの拡販による社会実装を進めております。

AI Research & Solution事業では、アルゴリズム・知能化技術の事業化を行っており、パートナー企業のニーズに合わせて共同研究開発からソリューションの提供までを一気通貫で実施しております。また、実オペレーションを通じた製品/サービス開発の一環で、IoT機器からリアル空間のデータをクラウド上に収集し顧客への価値提供を実現するサービスの開発を、駐車場機器の製造販売事業を通じて行っております。

AI SaaS事業では、AI Research & Solution事業におけるアルゴリズムの開発成果をもとに、汎用的なニーズに対応するプロダクトを販売しております。AI SaaSプロダクトは「顧客接点」・「社内業務」領域で利用されており、人の業務を効率化し能力を拡張していく形で、ビジネス支援や企業の課題解決を実現しております。

当第2四半期連結累計期間は、AI SaaS領域における顧客の拡大と機能拡充を目指す成長戦略のもと、AI SaaS事業下にある連結子会社の組織再編・統合を開始するとともに、AI SaaS間のシナジー創出に主眼をおいた研究開発の加速へとリソースを注力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,685,039千円(前年同四半期比35.7%増)となりました。これは主に、AI SaaS事業において各種プロダクトの販売が拡大したこと、並びに前連結会計年度中に取得した株式会社PRAZNA(2022年4月に株式会社PKSHA Communicationへ商号変更)・株式会社アシリレラの売上が連結業績に寄与したことによるものです。

営業利益は916,755千円(前年同四半期比91.0%増)、経常利益は901,079千円(前年同四半期比104.9%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は500,767千円(前年同四半期比117.6%増)となりました。これは主に、収益性の高いAI SaaS事業の売上高構成比が増加したことによるものです。

セグメント別の経営成績は次の通りであります。

(AI Research & Solution事業)

AI Research & Solution事業につきましては、パートナー企業からのニーズに対応する研究開発やソリューション案件のアップセルが堅調に推移したものの、実オペレーションであるモビリティ事業において、新型コロナウイルス感染症の影響による顧客の新規駐車場開設への投資意欲低迷が続き、駐車場機器の販売ペースが鈍化したしました。

この結果、売上高は3,309,772千円(前年同四半期比11.6%減)、セグメント利益は415,969千円(前年同四半期比13.8%減)となりました。

(AI SaaS事業)

AI SaaS事業につきましては、AI SaaSの導入による業務の高度化・自動化を進めるニーズが拡大している環境の中で、自動応答エンジンを中心にAI SaaSの新規受注とライセンスの積み上げを進めてまいりました。また、前連結会計年度中に取得した2社との連携を強め、プロダクトの拡充・高度化及び営業基盤の強化を進めることで、新規顧客の獲得を通じて売上並びに利益の成長に繋げております。一方で、今後の成長に向けて人件費を中心とした積極的な先行投資を実施しております。

この結果、売上高は2,378,266千円(前年同四半期比424.5%増)、セグメント利益は775,443千円(前年同四半期比360.6%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は34,314,187千円となり、前連結会計年度末に比べ963,270千円減少いたしました。流動資産は15,607,775千円(前連結会計年度末比26,820千円減)となりました。主な減少要因は、現金及び預金が167,689千円、受取手形、売掛金及び契約資産(前連結会計年度末は「受取手形及び売掛金」で表示)が165,335千円増加したものの、その他が384,910千円減少したことによるものであります。また、固定資産は18,695,999千円(前連結会計年度末比923,408千円減)となりました。主な減少要因は、投資有価証券が704,575千円減少したことによるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債は6,110,105千円となり、前連結会計年度末に比べ561,690千円減少いたしました。主な減少要因は、長期借入金が370,845千円、繰延税金負債が351,528千円減少したことによるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は28,204,082千円となり、前連結会計年度末に比べ401,579千円減少いたしました。主な減少要因は、利益剰余金が490,065千円増加したものの、その他有価証券評価差額が929,948千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期の連結業績予想につきましては、2021年11月12日に公表いたしました「2021年9月期 決算短信」に記載した内容から変更はございません。経営環境の動向を注視し、業績予想の修正が必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

なお、業績予想は、同資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,804,730	12,972,419
受取手形及び売掛金	1,301,610	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	1,466,946
原材料及び貯蔵品	404,549	429,912
その他	1,129,048	744,137
貸倒引当金	△5,342	△5,640
流動資産合計	15,634,595	15,607,775
固定資産		
有形固定資産	1,353,528	1,367,974
無形固定資産		
のれん	9,418,159	9,039,840
その他	900,243	904,886
無形固定資産合計	10,318,402	9,944,726
投資その他の資産		
投資有価証券	5,489,867	4,785,292
繰延税金資産	2,285,327	2,396,778
その他	172,281	201,227
投資その他の資産合計	7,947,476	7,383,298
固定資産合計	19,619,407	18,695,999
繰延資産	23,454	10,413
資産合計	35,277,457	34,314,187

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	353,231	349,308
1年内返済予定の長期借入金	661,690	701,690
未払法人税等	474,792	351,920
契約負債	—	262,059
賞与引当金	40,091	42,795
製品保証引当金	3,669	3,028
その他	896,197	875,992
流動負債合計	2,429,671	2,586,795
固定負債		
長期借入金	3,769,490	3,398,645
繰延税金負債	380,387	28,858
その他	92,245	95,805
固定負債合計	4,242,123	3,523,309
負債合計	6,671,795	6,110,105
純資産の部		
株主資本		
資本金	38,945	44,610
資本剰余金	25,137,613	25,143,277
利益剰余金	3,438,880	3,928,945
自己株式	△1,197,172	△1,197,247
株主資本合計	27,418,266	27,919,586
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	944,871	14,923
その他の包括利益累計額合計	944,871	14,923
新株予約権	1,681	1,556
非支配株主持分	240,842	268,015
純資産合計	28,605,662	28,204,082
負債純資産合計	35,277,457	34,314,187

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2021年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年10月1日 至2022年3月31日)
売上高	4,190,478	5,685,039
売上原価	2,535,697	2,884,432
売上総利益	1,654,781	2,800,606
販売費及び一般管理費	1,174,822	1,883,850
営業利益	479,959	916,755
営業外収益		
受取配当金	—	31,618
受取家賃	5,505	3,783
その他	4,105	7,677
営業外収益合計	9,610	43,079
営業外費用		
支払利息	10,239	22,177
株式交付費償却	13,041	13,041
持分法による投資損失	14,194	13,124
その他	12,428	10,412
営業外費用合計	49,903	58,755
経常利益	439,666	901,079
特別利益		
投資有価証券売却益	—	999
特別利益合計	—	999
特別損失		
固定資産除却損	4,423	403
特別損失合計	4,423	403
税金等調整前四半期純利益	435,243	901,676
法人税、住民税及び事業税	137,450	353,114
法人税等調整額	63,451	20,621
法人税等合計	200,901	373,735
四半期純利益	234,341	527,940
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,257	27,172
親会社株主に帰属する四半期純利益	230,084	500,767

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)
四半期純利益	234,341	527,940
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	568,649	△929,948
その他の包括利益合計	568,649	△929,948
四半期包括利益	802,990	△402,007
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	798,733	27,172
非支配株主に係る四半期包括利益	4,257	△429,180

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年10月1日 至2021年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年10月1日 至2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	435,243	901,676
減価償却費	202,484	268,429
のれん償却額	59,074	378,319
持分法による投資損益(△は益)	14,194	14,984
支払利息	10,239	22,177
株式交付費償却	13,041	13,041
売上債権の増減額(△は増加)	△262,378	△165,335
棚卸資産の増減額(△は増加)	123,995	△23,168
仕入債務の増減額(△は減少)	34,142	△3,923
前受金の増減額(△は減少)	△115,064	—
未払金の増減額(△は減少)	△13,139	△20,250
その他	△146,707	21,372
小計	355,123	1,407,321
利息及び配当金の受取額	106	32,391
利息の支払額	△10,467	△22,848
法人税等の支払額	△868,827	△486,030
法人税等の還付額	—	481,824
営業活動によるキャッシュ・フロー	△524,064	1,412,658
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△73,171	△103,878
無形固定資産の取得による支出	△178,399	△164,312
投資有価証券の取得による支出	△1,710,430	△729,541
敷金の差入による支出	△220	△31,022
その他	△3,078	103,501
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,965,299	△925,254
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△90,845	△330,845
非支配株主からの払込みによる収入	120,000	—
株式の発行による収入	20,282	11,204
自己株式の取得による支出	△297	△74
財務活動によるキャッシュ・フロー	49,140	△319,715
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,440,223	167,689
現金及び現金同等物の期首残高	24,137,073	12,804,730
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,696,850	12,972,419

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

AI SaaS事業の初期設定に係る一部の収益について、従来は基本サービス契約開始時に一括で収益を認識する方法としておりましたが、契約期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は21,288千円、売上原価は11,226千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ10,061千円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は10,702千円減少しております。収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、流動資産に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示しており、また、流動負債の「その他」に含めて表示していた前受金は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」として表示しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用しております。

当該会計方針の変更により四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額(注)	合計
	AI Research & Solution	AI SaaS	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,742,173	448,305	4,190,478	—	4,190,478
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	5,100	5,100	△5,100	—
計	3,742,173	453,405	4,195,578	△5,100	4,190,478
セグメント利益	482,627	168,354	650,981	△171,022	479,959

(注) セグメント利益の調整額△171,022千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の一般管理費であります。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額(注)	合計
	AI Research & Solution	AI SaaS	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,309,772	2,375,266	5,685,039	—	5,685,039
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,000	3,000	△3,000	—
計	3,309,772	2,378,266	5,688,039	△3,000	5,685,039
セグメント利益	415,969	775,443	1,191,413	△274,657	916,755

(注) セグメント利益の調整額△274,657千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の一般管理費であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、アルゴリズム/AIのマネタイズが進み、ストック収益が主体であるSaaS型ビジネスの重要性が増したため業績管理区分を変更いたしました。これに伴い報告セグメントを従来の「Mobility & MaaS事業」、「Cloud Intelligence事業」から「AI Research & Solution事業」、「AI SaaS事業」へ変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

また、会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。当該変更により、従来の方法に比べて当第2四半期連結累計期間の「AI SaaS」の売上高は21,288千円減少し、セグメント利益は10,061千円減少しております。